



## 第63期 報告書

2009.3.1 ▶ 2010.2.28

株式会社 オンワードホールディングス

証券コード 8016



代表取締役会長  
廣内 武



代表取締役社長  
水野 健太郎

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

2010年2月28日をもちまして、第63期の事業年度を終了いたしました。ここに第63期報告書をお届けし、事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

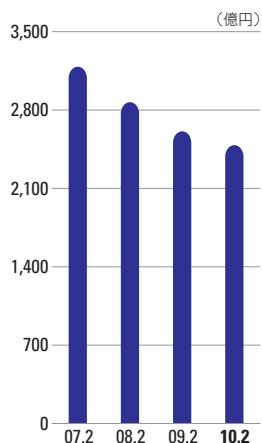
当社グループは、「人々の生活に潤いと彩りを与えるおしゃれの世界」を事業領域に定め、「ファッション」を生活文化として提案することによって新しい価値やライフスタイルを創造し、人々の豊かな生活づくりへ貢献することを経営理念としております。

また、当社グループは、ブランドを基軸とした経営による「ブランド価値の創造」をさらに推進し、お客様にご満足いただけるクオリティと価格を追求することで「価値価格」の実現をはかり、事業規模の拡大と経営基盤の強化により企業価値・株主価値の向上をめざしてまいります。

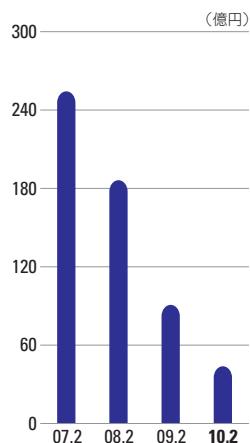
株主の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

# 財務ハイライト

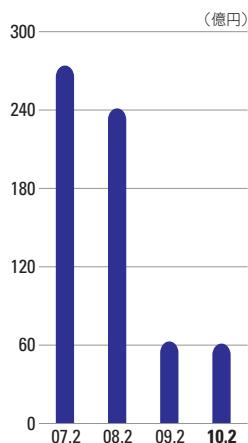
連結売上高



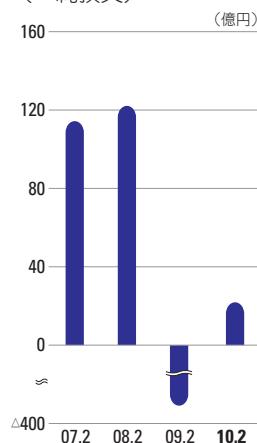
連結営業利益



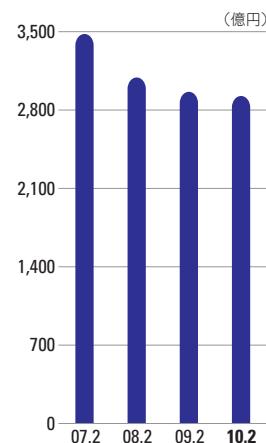
連結経常利益



連結当期純利益  
(△純損失)



連結総資産



(百万円)

	2007.2	2008.2	2009.2	2010.2
連結売上高	318,690	287,032	261,005	248,634
連結営業利益	25,431	18,628	9,084	4,383
連結経常利益	27,407	24,128	6,285	6,120
連結当期純利益(△純損失)	11,438	12,213	△30,895	2,187
連結総資産	347,936	309,092	296,282	292,568
連結純資産	225,138	197,639	158,418	158,164
連結1株当たり当期純利益(△純損失)(円)	70.52	76.53	△197.21	13.97

## 事業環境と業績全般について

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な景気低迷が続くなか、政府の経済対策の効果により一部には需要回復の兆しが見られたものの、雇用・所得環境の悪化などから景気の停滞局面が続きました。

当アパレル業界におきましても、生活防衛意識の高まりから低価格競争に拍車がかかり、個人消費環境は非常に厳しい状況となりました。

このような経営環境のなか、当社グループは経営の効率化を進めるとともに、企画・生産・販売における全部門で、消費者視点による「価値ある商品」の開発から提案までの強化施策を積極的に推進いたしました。また、M&Aによる事業拡大とグループシナジー効果による収益性の改善、ネット市場への本格的参入など、今後の成長を見据えた施策



「自由区」



「23区」

にも重点的に取り組みました。これらの成果は下期に表れてまいりましたが、通期では前年を下回る業績となりました。

### 第63期(2010年2月期)連結業績実績

売上高	2,486億 34百万円	(前期比 4.7%減)
営業利益	43億 83百万円	(前期比 51.7%減)
経常利益	61億 20百万円	(前期比 2.6%減)
当期純利益	21億 87百万円	(前期は308億95百万円の当期純損失)

## 事業セグメント別の概況

### ■アパレル関連事業

国内事業につきましては、株式会社オンワード樫山において、基幹ブランドを中心に、消費者が価値を認める

「価値価格」商品を、ブランドが理想とする魅力的なショッップ環境で展開するために、主力百貨店売場の移設・拡大を積極的に推進してまいりました。それと同時に、非効率なブランド・店舗の廃止や生産管理の徹底をはかるなどの効率化により、下期から「23区」をはじめとする基幹ブランドの売上高が回復基調となり粗利益率も改善いたしました。

その他の子会社につきましては、経営の効率化により売上高は減少したものの、増益となりました。また、2009年12月1日付で連結子会社となりました株式会社アイランドの業績が順調に推移し収益に寄与いたしました。

海外事業につきましては、ラグジュアリー市場の回復の遅れから、欧州地区においてジョゼフ、ジルサンダーの両グループが営業損失となりましたが、ジョゼフグループは、新成長戦略の「商品施策」「店舗施策」が期間後半



「ジル・サンダー」

より本格的に稼働し、下期は増収増益となりました。ジルサンダーグループは、構造改革を進めたことで大幅な赤字となりましたが、経営体質改善が進み、ジボ・コーグループとのシナジー創出体制も整いました。アジア地区は、上期は減収となりましたものの、期間後半からは回復基調となりました。北米地区は、計画通りに推移し収益が改善いたしました。

#### ■アパレル関連事業

売上高	2,342億 1百万円	(前期比 4.6%減)
営業利益	45億 57百万円	(前期比 49.1%減)



株式会社アイランド  
「グレースコンチネンタル」

## ■その他の事業

サービス関連事業およびリゾート関連事業につきましては、売上高は減少したものの、経営の効率化により業績は改善いたしました。

## ■その他の事業

売上高	211億 97百万円 (前期比 8.9%減)
営業損失	39百万円 (前期は1億19百万円の営業損失)



オンワード  
ビーチリゾートグアム



アクロストランスポート



「組曲」

## 次期の見通し

今後の見通しにつきましては、海外需要の伸びで輸出関連を中心に企業業績が改善に向かうとの見方があるものの、雇用不安、所得の減少などの先行き不安から、個人消費の回復にはまだ時間がかかり、厳しい状況が続くものと思われます。

このような経営環境のなか、国内事業は、収益性を改善し増益をはかりながら、新たな成長が見込める事業につきましては、必要な投資を行ってまいります。

具体的には、株式会社オンワード樫山につきましては、基幹ブランドを中心に、消費者視点で「商品力」「販売力」「売場環境」を徹底的に磨き上げ「ブランド価値」を高めてまいります。新たな開発では、グループの技術力とマーケティング力を駆使して、消費者を感動させる、価値

ある商品と魅力的な仕掛けで「付加価値創造」をブランド横断で行います。また、百貨店との「共生」により双方が強みとする各分野を融合し、進化させた新ブランドを今春よりデビューさせます。

加えて、オンワードグループの総合力を生かした拡大施策として、急成長するネット市場、ヤング世代を中心に成長する都市型商業施設に対する事業拡大を本格的に進めてまいります。

海外事業につきましては、欧州地区において、昨年まで取り組んできた構造改革や先行投資を行いながら成長軌道に乗せてまいります。具体的には、ジョゼフグループに

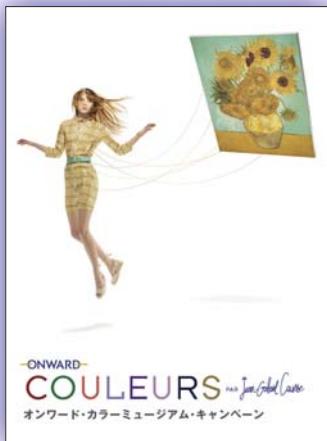


「ジョゼフ」モンテーニュ店

ついて、新クリエイティブチームによる商品施策や旗艦路面店のリニューアル効果により売上拡大が順調に進んでいることから、今後さらに新成長戦略を推進することで収益改善を実現してまいります。また、ジルサンダーグループもジボ・コーグループとの取り組み強化による生産体制の強化と効率化がはかれたことで、新たなグローバル戦略を推進してまいります。大きく市場拡大が見込めるアジア地区は、国内と同一消費市場と捉え、組織強化と活動エリア拡大による成長戦略を進めてまいります。

#### 第64期(2011年2月期)連結業績予想

売上高	2,500億円 (前期比 0.5%増)
営業利益	66億円 (前期比 50.6%増)
経常利益	90億円 (前期比 47.1%増)
当期純利益	35億円 (前期比 60.0%増)



印象派の絵画から100色以上を選び出し  
色彩豊かなファッションを展開  
百貨店13店舗を美術館に見立てた  
キャンペーンを開催

「オンワード・カラーミュージアム」

### “本当にファッション好きの為の洋服”をテーマに 存在感のあるブランド事業を展開する「株式会社アイランド」を子会社に

当社は、2009年12月1日に株式会社アイランドの全株式を取得いたしました。

株式会社アイランドは、レディスブランド「GRACE CONTINENTAL (グレースコンチネンタル)」を主力ブランドとして、ファッションビルや百貨店を中心に38店舗で展開しております。

“本当にファッション好きの為の洋服”をテーマに、手間を惜しまず素材や仕様にこだわった美しい商品と、ブランドコンセプトにマッチした理想のショップ環境により、お洒落で高感度な女性から圧倒的な支持を獲得しております。



「グレースコンチネンタル」相鉄ジョイナス店



「グレースコンチネンタル」

また、同社は商品の製造、販売、宣伝プレスまで自前主義を徹底した収益性の高いビジネスモデルを構築しており、今後、このビジネスモデルを当社グループのなかで共有することにより、事業拡大を進め成長性を高めてまいります。

## 株式会社オンワード樫山にて「TOCCA(トッカ)」の新たな事業戦略をスタート!

株式会社オンワード樫山は、2010年春から「TOCCA」の日本における商標権を取得いたしました。

「TOCCA」は、世界のセレブリティに多くのファンを有する洗練された独特の世界観をもったブランドで、当社グループのバスストップ株式会社で1996年より独占輸入販売を行ってまいりました。

今後は、株式会社オンワード樫山の企画生産体制、営業力、運営ノウハウを活用することにより、日本市場での事業拡大をはかってまいります。



「TOCCA」青山店



「エアージャケット」

### “空気を着よう”ニットジャージの着心地と テーラード仕立てを両立させた「エアージャケット」を開発

株式会社オンワード樫山は、伸縮性の高いニットジャージ素材を使用し、テーラード仕立てでありながら、軽くて柔らかな着心地を実現した「AIR JACKET（エアージャケット）」を開発いたしました。

2010年4月より、「五大陸」「J.プレス」「ダックス」などのメンズ主力ブランドを中心に本格的な発売を開始するとともに、百貨店29店舗において「Thanks Daddy's Jacket Fair」を開催し、売上高も順調に推移しております。

また、20年ぶりにラジオCMを実施し、吉田拓郎氏のヒット曲である「元気です」をテーマソングに起用し、話題性のある販売促進を実施しております。

## 直営ショッピングサイト

### 「ONWARD CROSSET (オンワード・クローゼット)」グランドオープン

株式会社オンワード樫山は、2009年12月1日に直営ショッピングサイト「ONWARD CROSSET」をグランドオープンいたしました。

急速に拡大するネット市場に向けて、リアル店舗とインターネットショップとの相乗効果を高める戦略から、当社の主力ブランド「23区」「組曲」「自由区」「ICB」を中心に直営ショッピングサイトの運営を行っております。



「オンワード・クローゼット」トップページ

URL <http://crosset.onward.co.jp/>



2010年初夏の注目アイテムを紹介する“トレンドレシピ”。

また、購入額に応じたポイント還元サービスの導入、ネット限定企画商品の販売、メールマガジンの発信等、インターネットショップならではの販促活動やサービスを充実させることにより、会員数の拡大をはかっております。

今後は、グループ各社との連携により「ZOZOTOWN」や「楽天市場」の人気ネットモールへの出店も含めた本格的な拡大策を進め、グループ全体での収益拡大につなげてまいります。



## 環境経営への取り組み

環境活動を経営施策のひとつに掲げ、地球と人々の共生をめざしたチャレンジを続けております。

### 環境配慮型衣料の開発

## 土に還る究極のエコロジー・スーツ「バイオテックスーツ」を発売

当社は、2009年12月に開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ 2009」に参考出品し、土に還る究極のエコロジー・スーツとして脚光を浴びた「生分解スーツ」を「BIO TECH SUIT (バイオテックスーツ)」として商品化いたしました。株式会社オンワード樫山の紳士服ブランド「五大陸」「J.プレス」で採用し、2010年6月より、販売を開

始いたします。

「BIO TECH SUIT」は、土に埋めるとほぼ1年で、バクテリアの酵素により水と二酸化炭素に分解されます。また、土中に有害物質を残さない原材料、副材料を使用しており地球環境にも配慮したスーツです。



### オンワード・グリーン・キャンペーン

当社は、“この地球を想う。この服をまとう。”を環境コンセプトに掲げ、環境経営を推進しております。その一環として、株式会社オンワード樫山が販売した衣料を百貨店で回収し、可能な限りリサイクル、リユースすることを通じて衣料循環システムの構築をめざす「オンワード・グリーン・キャンペーン」を2009年度よりスタートいたしました。

初年度は百貨店12店舗で実施。25,608人のお客様から130,649点の衣料を回収し、リサイクル61%・リユース39%で活用いたしました。また、リサイクルに関しては、毛布3千枚、

軍手54,500双を生産し、社会貢献活動に活用しております。3千枚の毛布は、この春に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の協力のもと、バングラデシュの難民キャンプ等に寄贈されました。

2010年度も春と秋の年2回の実施を予定し、約20万点の衣料の回収をめざしております。回収した衣料から毛布や軍手を生産することで資源の有効活用を行うとともに、社会貢献活動に活用してまいります。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(百万円)

	前期 2009年2月28日現在	当期 2010年2月28日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	98,945	100,680
現金及び預金	23,415	34,330
受取手形及び売掛金	26,420	25,730
商品及び製品	29,359	27,179
原材料及び貯蔵品	2,988	2,549
仕掛品	1,410	1,165
繰延税金資産	3,913	4,238
その他の流動資産	11,600	6,348
貸倒引当金	△162	△862
<b>固定資産</b>	197,336	191,888
<b>有形固定資産</b>	90,174	89,741
建物及び構築物	29,113	28,295
土地	53,041	53,331
その他の有形固定資産	8,019	8,115
<b>無形固定資産</b>	50,374	50,811
のれん	47,475	47,417
その他の無形固定資産	2,899	3,393
<b>投資その他の資産</b>	56,788	51,335
投資有価証券	33,824	31,193
長期貸付金	4,507	4,969
長期前払費用	1,270	881
繰延税金資産	5,748	5,529
その他の投資	14,159	12,001
貸倒引当金	△2,723	△3,240
<b>資産合計</b>	296,282	292,568

(百万円)

	前期 2009年2月28日現在	当期 2010年2月28日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	92,368	90,929
支払手形及び買掛金	39,620	35,961
短期借入金	28,252	31,881
1年内返済予定長期借入金	3,395	3,816
1年内償還予定社債	166	204
未払費用	8,740	7,178
未払法人税等	2,261	4,085
未払消費税等	2,466	960
賞与引当金	2,187	1,568
役員賞与引当金	133	262
返品調整引当金	637	545
その他の流動負債	4,506	4,463
<b>固定負債</b>	45,496	43,475
社債	8	518
長期借入金	26,746	24,053
再評価に係る繰延税金負債	5,949	5,949
退職給付引当金	2,933	3,273
役員退職金引当金	56	122
債務保証損失引当金	30	—
その他の固定負債	9,773	9,558
<b>負債合計</b>	137,864	134,404
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	178,023	175,450
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,043	50,043
利益剰余金	121,412	118,816
自己株式	△23,512	△23,489
<b>評価・換算差額等</b>	△21,156	△18,949
その他有価証券評価差額金	△6,929	△5,559
繰延ヘッジ損益	△75	△42
土地再評価差額金	△11,074	△10,992
為替換算調整勘定	△3,076	△2,354
<b>新株予約権</b>	293	412
<b>少数株主持分</b>	1,258	1,251
<b>純資産合計</b>	158,418	158,164
<b>負債及び純資産合計</b>	296,282	292,568

## 連結損益計算書

(百万円)

	前期	当期
	2008年3月1日から 2009年2月28日まで	2009年3月1日から 2010年2月28日まで
<b>売上高</b>	261,005	<b>248,634</b>
売上原価	142,676	<b>134,458</b>
売上総利益	118,329	<b>114,176</b>
販売費及び一般管理費	109,245	<b>109,792</b>
<b>営業利益</b>	9,084	<b>4,383</b>
営業外収益	4,419	<b>4,667</b>
営業外費用	7,217	<b>2,929</b>
<b>経常利益</b>	6,285	<b>6,120</b>
特別利益	924	<b>2,419</b>
特別損失	37,805	<b>2,150</b>
<b>税金等調整前当期純利益または当期純損失(△)</b>	<b>△30,596</b>	<b>6,389</b>
法人税、住民税及び事業税	4,639	<b>4,016</b>
法人税等調整額	△4,602	<b>157</b>
少数株主利益	262	<b>27</b>
<b>当期純利益または当期純損失(△)</b>	<b>△30,895</b>	<b>2,187</b>

## 連結株主資本等変動計算書(2009年3月1日から2010年2月28日まで)

(百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
<b>2009年2月28日残高</b>	30,079	50,043	121,412	△23,512	178,023	△6,929	△75	△11,074	△3,076	△21,156	293	1,258	158,418
<b>連結会計年度中の変動額</b>													
剰余金の配当			△4,699		△4,699								△4,699
当期純利益			2,187		2,187								2,187
自己株式の取得				△7	△7								△7
自己株式の処分			△1	29	28								28
土地再評価差額金取崩			△81		△81								△81
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						1,370	32	81	721	2,206	119	△7	2,319
<b>連結会計年度中の変動額合計</b>	—	—	△2,595	22	△2,572	1,370	32	81	721	2,206	119	△7	△253
<b>2010年2月28日残高</b>	30,079	50,043	118,816	△23,489	175,450	△5,559	△42	△10,992	△2,354	△18,949	412	1,251	158,164

## 会社の概要 (2010年2月28日現在)

社名	<b>株式会社 オンワードホールディングス</b> ONWARD HOLDINGS CO., LTD.
設立	昭和22年9月4日
資本金	300億79百万円
事業内容	純粋持株会社としてのアパレル、サービス、リゾート関連事業を営む傘下関係会社の経営管理およびそれに附帯する業務
従業員数	35名
所在地	東京都中央区日本橋3丁目10番5号
主要関係会社	株式会社オンワード樺山 オンワード商事株式会社 チャコット株式会社 株式会社クリエイティブヨーコ 株式会社アイランド* バスストップ株式会社 アクロストランスポート株式会社 株式会社オンワードクリエイティブセンター 株式会社ブックレット 株式会社オンワードライフデザインネットワーク 株式会社オーアンドケー ジョゼフLTD. シボ・コーS.P.A. シルサンダーイタリアS.P.A. フリードオブロンドンLTD. オンワードピーチリゾートグアムINC. J. プレスINC. 恩瓦徳時尚貿易（中国）有限公司

## 取締役および監査役 (2010年5月27日現在)

代表取締役会長	廣内 武
代表取締役社長	水野健太郎
代表取締役副社長	馬場和哉
常務取締役	吉沢正明
常務取締役	田中 実
取締役	本庄八郎
取締役	中村嘉秀
常勤監査役	山本昭登
常勤監査役	青山 仁
監査役	矢部丈太郎
監査役	大橋一章

- (注) 1. 取締役 本庄八郎、中村嘉秀の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
2. 監査役 矢部丈太郎、大橋一章の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

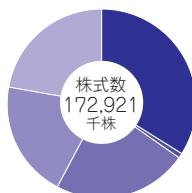
## 株式の状況(2010年2月28日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	11,130名

(注)発行済株式の総数には、自己株式16,260千株が含まれております。

## 所有者別株式分布状況

金融機関	58,538千株	33.9%	
証券会社	1,560	0.9	
その他の法人	39,945	23.1	
外国法人等	34,558	20.0	
個人・その他	38,320	22.1	



(注)個人・その他には、自己株式が含まれております。

## 大株主(上位10社)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
財団法人櫻山奨学財団	8,710千株	5.5%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,187	5.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,110	4.5
日本生命保険相互会社	6,227	3.9
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティەر ジャスデック アカウト	5,904	3.7
株式会社伊勢丹	5,001	3.1
第一生命保険相互会社	4,200	2.6
株式会社丸井グループ	3,417	2.1
株式会社三井住友銀行	2,931	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	2,827	1.8

- (注) 1. 当社は自己株式16,260千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。  
 2. 持株比率は、自己株式16,260千株を控除して計算しております。  
 3. 第一生命保険相互会社は2010年4月1日付で第一生命保険株式会社となっております。

## 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	上場証券取引所	東京・大阪・名古屋証券取引所 市場第1部
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日	公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
定時株主総会	毎年5月中	公告掲載URL	<a href="http://www.onward-hd.co.jp/">http://www.onward-hd.co.jp/</a>
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)		



当冊子についてのお問い合わせ先

**株式会社 オンワードホールディングス**

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312



この報告書は適切に管理された森林から産出された「森林認証材 (FSC)」を使用し、環境に配慮した「ベジタブルオイルインク」を使用しています。